



10月27日 幼年消防クラブが放水体験  
～大槌町幼年消防フェスティバル～



町内の保育園児、幼稚園児らで組織される大槌町幼年消防クラブによるフェスティバルが10月27日、大槌消防署で開催されました。このフェスティバルは、クラブ員とその指導者、消防関係者が一堂に会して楽しくふれあい、

幼年期における防火防災思想の高揚を図ることなどを目的に、消防車の乗車体験や、放水体験などが行われました。

放水体験をした阿部斗極くんは、「ホースが軽かった。難しかったけど楽しかった」また、火災の煙体験をした倉本永人くんは「煙で周りが見えなかった。今日の体験で、もしも火事が起きても逃げることができそうです」と感想を話しました。



11月13日 鮭の日給食会が復活  
大槌学園4年生が地元の鮭を味わう

11月13日、大槌学園で平成29年度「鮭の日給食会」が開催されました。11月11日が「鮭の日」であることにちなみ、以前開催されていた「鮭の日給食会」が5年ぶりに行われました。メニューは鮭のおろしあんかけ、野菜のごまあえ、ごはん、じゃがいもとわかめの味噌汁、牛乳。鮭とわかめは大槌産、その他は、県産食材が多く使われました。

今回の鮭の日給食会は、4年生66名が対象で、新おおつち漁業協同組合組合長をはじめ、関係者が多数ゲストとして参加しました。給食を食べた中村元信くんは、「鮭は普段から大好きで、家でもよく出て食べています。今日のメニューも美味しかったです」と元気に答えてくれました。

この給食会は、地産地消の取り組みに対する学びとして、今後も継続していく予定とのことです。



11月5日 地震初動防御行動訓練を実施  
～津波防災の日～



津波防災の日（世界津波の日）の11月5日に町内一斉の防災訓練が行われました。地震初動防御行動訓練を全町で実施し、沿岸部に関しては防御行動訓練の後に津波避難訓練を実施しました。

訓練は、11月5日午前8時、三陸沖を震源とする東日本大震災と同規模の想定M9.0の地震が発生し、大津波警報が発表されたとの想定で町内一斉に実施され、町内会や自治会、商業施設や事業所などの参加者一人ひとりが、まず自分の身を守ることから始め、続いて避難訓練が行われました。

町内では、大ケ口地区、源水地区において、自主防災組織の避難誘導に促され、約200人の地域住民が避難しました。

11月15日 岩手県若年者技能競技会で入賞  
銀賞に上野貴大さん、銅賞に金崎晃洋さん

県内の職業訓練校などに通う訓練生を対象に10月25日に滝沢市で開かれた平成29年度岩手県若年者技能競技会で、釜石訓練校木造建築科2年の上野貴大さん（松永建築）が銀賞を、同じく2年の金崎晃洋さん（川畑工務店）が銅賞をそれぞれ受賞し、11月15日、平野町長に受賞を報告しました。この競技は与えられた図面と材料を制限時間内に組み立て、その作品の出来栄や精巧さを評価し、順位付けするものです。



報告を受け、平野町長は「技術職の若い二人が受賞されたことは、地域全体にとって誇らしいことです。これからも研鑽を積み、町民に喜ばれる、『本物の』大工さんになってください。」と激励。

受賞した2人は「普段は機械で作業するところを全て手作業だったので苦労しましたが、さらに技術を高め、精進していきたい」と決意を語りました。

特集

愛しきふるさと

大槌を離れて生活する多くの人々。彼らの言葉は、故郷への想いにあふれ、その目は、遙か遠くの故郷へ焦点を合わせ見つめています。

「雨に風につけても 思い出づる故郷」  
郷土への愛は、離れて初めて輪郭が見えるものなのかもしれません。  
そんな大槌びとたちの言葉に触れると、  
自分の中にもあった、誇りともいえる大槌への想いに気づきます。

